

平成 30 年度 学校自己評価システムシート (県立進修館高等学校)

目指す学校像	「進徳修業」の精神に基づき、知・徳・体の調和のとれた人材を育成し、明るく活力にあふれ、地域から信頼される学校。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 授業の工夫・改善に努め、個に応じた「主体的・対話的で深い学び」を支援して確かな学力の確実な定着・向上と第一志望をかなえる進路指導を実践する。 2 規律ある態度と豊かな人間性を育み、笑顔で活気のある生徒を育てる。 3 地域と連携した活動の推進と教育活動の積極的な発信に努め、地域から期待される学校を目指す。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	5名

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標					年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	○多様な進路希望を実現させるためには、義務教育段階の基礎学力を定着させるとともに、主体的な学びや思考の活性化を深めるための授業力向上に積極的に取り組む必要がある。	○基礎学力の向上及び定着と主体的な学びを促す授業の実施に向けた工夫及び改善	<ul style="list-style-type: none"> ・本校生徒に見合った「主体的・対話的で深い学び」を実践するプロジェクトチーム及び授業研究の継続 ・基礎学力の向上に向けたきめ細かい授業の工夫や面倒見の良い学習支援の充実 ・基礎力診断テストを活用しての事前指導・事後指導の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科内で互見授業及び授業研究を実施したか ・授業力向上研修会を実施したか ・生徒アンケートの「先生が熱心に授業を行っている」割合が増加したか ・定期考査前に学習会を実施したか ・基礎力診断テストのGTZの数値が上がったか 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業力向上の取組は継続、基礎学力の向上が図れた。 ・教務部が埼玉教育の日週間に互見授業を提案、実施。 ・11月に研修会を実施(授業観察フィードバックとICT活用に関する内容)。 ・アンケート結果は8割の生徒が授業を評価。 ・定期考査前に年5回の土曜勉強会を実施。 ・1,2年ともDゾーン生徒が4月より減少。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業力向上プロジェクトチームの活動が不十分に終わった。本校に見合った「主体的で対話的な深い学び」を研究し、実践する必要がある。 ・ICT活用については、タブレット導入に伴う授業研究と書画カメラの活用を推進する。 ・本校独自の手帳作成により、自らのスケジュール管理・学習計画・振り返りとして活用することで主体的に進路を考えさせる。 ・指定校推薦だけでなく一般入試に挑戦する大学進学希望者を増やす。
	○安易な進路選択・決定をさせないために、進路探究を十分に行うことで進路の目的意識を強く持たせる組織的かつ計画的な進路指導が必要である。特に大学進学指導をより充実させる必要がある。	○生徒の主体的進路選択を促す指導と第1志望をかなえる組織的、計画的進路指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・学年、教科、進路指導部が緊密に連携した組織的進路指導の実施 ・生徒・保護者への適切な情報提供 ・進学補習の実施方法・内容の改善 ・生徒の能力や適性に見合ったミスマッチを防ぐきめ細かい就職指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的、計画的な進路指導が実施できたか ・進学補習への参加生徒数が増加したか ・保護者への進路情報を随時提供したか ・生徒・保護者アンケートの「きめ細かい進路指導を行っている」割合が増加したか ・第1志望進路決定率が増加したか 	<ul style="list-style-type: none"> ○進路指導部を中心に計画的に進路指導を展開できた。 ・夏季休業中の補習開講数は13、冬季休業中は4だった。 ・夏季懇談会で進学向けと就職向けの講演を実施。 ・アンケート結果は78%で、約8割が進路指導を評価。 ・内定率91.2%、第1志望決定率89.3%。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○土曜勉強会の導入は評価できるが、出席者が回を追うたびに少なくなっている原因は何か。生徒にとって非常に良い取組なのでもっと活性化させる工夫が必要である。 ○保護者対象の進路説明会や講演会は今後も進学と就職と分けて実施してほしい。 ○一般入試受験者を増やすには基礎学力の向上が必要である。
2	○基本的生活習慣の確立や規律の遵守という学校生活の基盤づくりはHR担任の役目であり、社会性を持たせ自分で判断できる力の育成が必要である。	○基本的生活習慣と規律ある態度の育成に向けた組織的、継続的な生徒指導の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の日常生活における「凡事徹底」 ・頭髪整容指導等の組織的な指導 ・教育相談機能の整備と適切な対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・遅刻率及び欠席率が前年度よりも減少したか ・問題行動発生件数が減少したか ・生徒アンケートの、規律ある態度の育成に係る各項目で改善が見られたか ・いじめや特別支援教育に関する校内研修会を実施したか 	<ul style="list-style-type: none"> ○基本的生活習慣はほぼ確立、生徒指導件数は大幅に減少した。 ・遅刻率は前年度比8.1%、欠席率は6.2%減少した。 ・問題行動件数は1件のみ。 ・アンケート結果は90%が評価。 ・年度当初にいじめについて、1月に特別支援教育の研修会を実施。 ○連続1週間欠席生徒の情報を管理職に報告し早期に対応した。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○欠席・遅刻者数の減少は素晴らしい。毎年良くなっている。今年度は3年生の進路決定後も欠席者が少ない。 ○登校指導や挨拶、定期的実施する頭髪服装指導の効果が表れている。今後も続けてもらいたい。生徒指導の減少はもっとアピールしてよいことである。 ○部活動の活発な学校は評価される。自然と進修館高校を希望する生徒の増加につながる。 ○近隣中学校としては、基本的生活習慣が確立された高校生の様子はロールモデルとなり、中学校としてもメリットとなるのでありがたい。 ○中学生にとって部活動が盛んであることは高校生活が充実していることの指標となっている。生徒が主体となり生き生きとした学校は魅力的である。目に見える指標の1つなので今後も推進していただきたい。
	○いじめ、特別支援、不登校等に対応するために教育相談の校内体制を整備する必要がある。	○個々の生徒の情報交換及び情報共有による早期対策	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入の積極的奨励 ・部活動未加入者への指導 ・部活動間の交流と活動実績の向上 ・生徒会活動を基に生徒が主体となった学校行事等の活性化 ・合宿所の活用促進と施設・設備の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動加入割合が増加したか ・部活動において顕著な活動実績が見られたか ・生徒アンケートで「学校行事に積極的に参加した」割合が増加したか ・校内外での部活動が活発化したか 	<ul style="list-style-type: none"> ○部活動加入生徒数は増加し、活発に活動するようになった。 ・部活動加入率は1年82%、2年86%、3年66%で昨年度より8%増加(1月)。 ・アンケート結果88%で昨年度より2%増加。 ・合宿所を利用する部活動が増加。陸上競技部、機械研究部、電子機械研究部、弓道部、写真部が全国大会出場、ダンス部が躍進。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害や学習障害を持つ生徒への指導体制を整える必要がある。 ・1年生の退部者が減少した。3年間部活動を継続する生徒を育成するとともに、教職員の負担軽減を図るため部活動の活動方針を策定する。
3	○HPだけではなくSNS等を活用して、興味・関心を引く学校情報の発信をしてはどうか。地域と連携した活動を更に促進し、安定した生徒募集を実現する必要がある。	○多様な情報発信の継続と工夫改善	<ul style="list-style-type: none"> ・学校通信を活用した効果的広報 ・HP更新回数増加による情報発信 ・地域活動への積極的な参加 ・選抜基準の見直しと中学校管理職対象の学校説明会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内外の行事等に参加した回数が増えたか ・学校説明会の参加生徒数が増加し、全学科において1.1倍を超える受検者の応募があったか 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内行事へ積極的に参加した。 ・さきたま火祭り、浮き城祭りに参加。 ○学校説明会参加者数が増加した。 ・1回296名、2回130名、3回169名、4回85名、5回65名、7月説明会等参加者増。 ・選抜基準を見直し市内中学校長会で説明。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティア参加は是非とも実施してもらいたい。行田市内唯一の高校なので地元の人たちとの触れ合いができることは良いことである。 ○普通科を総合学科に統合し再編整備したことについて今後も中学生や保護者に丁寧な説明をお願いしたい。 ○中学生が実際に訪問し、授業や部活動などを体験する機会があることは、意欲をかき立てられ身近な存在の学校と中学生に認識される。こうした機会を今後も継続してもらいたい。 ○総合的な探究の時間の「行田學」は非常に面白い企画である。進修館高校生にとっても地域にとってもプラスになる取組にしてほしい。
	○中学生の減少や地域の生徒や保護者、中学校等のニーズを踏まえ、本校の将来構想をPRし、更に地域に根ざした学校づくりに取り組む必要がある。	○総合学科再編に伴う学校構想の具体化	<ul style="list-style-type: none"> ・2020年構想委員会を中心とした将来構想の具体化と平成31年度入学生からの新教育課程導入の整備 ・総合学科の「産業社会と人間」の抜本的見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の「履修の手引き」を作成したか ・「産業社会と人間」の内容を見直し、具体的な年間指導計画を作成したか 	<ul style="list-style-type: none"> ○学科再編に伴う校内整備を行った。 ・キャリア教育の充実に向け、「産業社会と人間」を抜本的に見直し年間計画策定。 ・「履修の手引き」の改訂。 ・「総合的な探究の時間」として「行田學」を企画。 ・普通科統合に伴い、教室配置を変更。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの部活動が市内行事に参加した。今後は市内ボランティア活動にも参加を促す。 ・生徒の育成すべき資質・能力を検討し、グランドデザインを策定することで更に魅力ある学校づくりを推進する。 ・「行田學」の総探や「産社」のキャリア教育を通じて、行田市教育委員会、市内関係者、同窓会と綿密な連携を図る。

